

談話室

法学部 教授 関根政美せきね まさみ

三田キャンパスの研究室棟1階にある教員談話室（以下談話室）は、さまざまな学部で籍を置く同僚や他大学の先生、学生と会うためだけでなく、メディア関係者や他の来客と面会するのにも大変便利なスペースである。とくに私の研究室は蔵書や書類などで埋まっており、今にも書類雪崩なり蔵書崩れが起きそうで、ゆつたりと座って話すスペースがないので、とても重宝している。面談スペースの心配をせずに人と会う算段ができるのでよい。他大学の先生と談話室で話しているときによく言われるのは「この談話室は便利でいいですね」である。確かに便利である。先日も他大学の同僚を訪ねた際に、面会場所を探すのに苦労していたようで面倒をかけた。小さな会議室の予約が大変だったらしい。私に対してそんなに気を遣わなくてもよいのだが、気を遣わせてしまったようである。

ところで談話室で何をしているのかというと、もちろん誰かと会って談話しているはずだが、私はどちらかというと1人で新聞を読んだり、あれこれと論文の構想を練ったりで談話していることはあまりない。研究室が窮屈で談話室の方が集中できるのである。周りには、学生と先生が何やら小難しい話をしているテーブルや、来客と何かの打ち合わせなどで談笑されているテーブルもあり、結構騒々しいが、割合集中できるのが不思議だ。私は、授業の前に新聞や備え付けの雑誌を読んでいることが多い。社会変動論（国際社会学）や現代オーストラリア論の授業当日、時間潰しにできるようなネタはないか探している。幸いなことに経済だけでなく、安全保障面での協力を深めている日豪関係に関するニュースが増えているので、主要紙や外国紙に目を通す必要も高まっている。

しかし、問題もある。談話室という便利な存在があり気兼ねなく来客と会えるので、お客の来ない私の研究室はますます乱雑で窮屈になっていくのである。私は来年退職を控えており、どうしようかと今から一人、談話室で頭を悩ませている。



談話室

教員によるエッセイコーナー